

○各指標の状況

番号	具体的施策
----	-------

番号	中間アウトカム
----	---------

番号	分野アウトカム
----	---------

【へき地における診療体制の確保】

1	へき地診療等の確保と支援 (オンライン診療体制整備を含む)	策定時	1年後
	へき地医療拠点病院数	10施設 【R5】	10施設 【R6】
	へき地診療所数	28施設 【R5】	28施設 【R6】
	へき地診療所設備整備等の補助実施数	5か所 【R5】	10か所 【R6】

1	へき地の医療提供体制が維持・確保されている	策定時	1年後	目標
	へき地診療所からの代診医派遣 依頼応需率	100% 【R4】	100% 【R6.12】	100%

1	へき地において必要な医療の 提供を受けることができる	策定時	1年後	目標
	へき地等への地域枠医師等 の派遣数※	29人 【R4】	45人 【R6】	32人

※従事義務の下、へき地および医師少数区域に所在する医療機関で常勤する地域枠医師と自治医科大学卒業医師(キャリアサポート適用者を含む)の合計

【へき地医療等を担う医療人材の確保】

2	へき地医療を担う医師確保の取組	策定時	1年後
	自治医科大学合格者数	2人 【R5】	3人 【R6】
	三重県医師修学資金貸与者数	47人 【R5】	44人 【R6】
	看護職員確保の取組	策定時	1年後
	三重県保健師助産師看護師等修学資金貸与者数	23人 【R5】	21人 【R6】

2	へき地医療を担う医療人材が確保されている	策定時	1年後
	自治医科大学卒業生および三重県医師修学資金貸与者のうち従事義務の下で勤務している人数	252人 【R5】	282人 【R6】

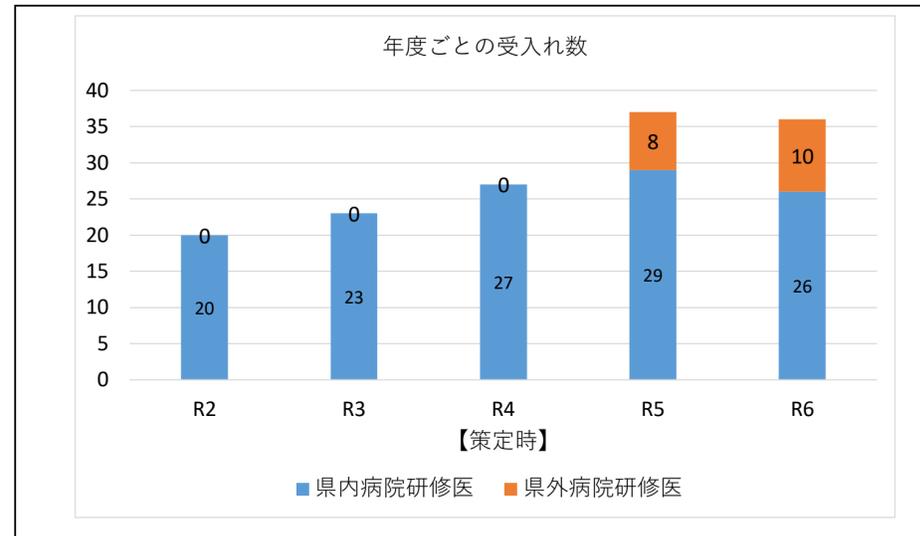
【将来に向けた医療人材の育成】

3	へき地医療を担う人材育成の取組	策定時	1年後
	三重県地域医療研修センターでの臨床研修医受入れ数(累計数)	353人 【R5】	426人 【R6.12】
	へき地医療体験実習・研修会参加者数	20人 【R5】	23人 【R6】
	みえ地域医療メディカルスクール参加者数	170人 【R5】	106人 【R6】
	看護体験参加者数	362人 【R5】	294人 【R6】

3	へき地医療を担う人材育成がなされている	策定時	1年後	目標
	三重県地域医療研修センターでの臨床研修医受入れ数(累計数)(再掲)	353人 【R4】	426人 【R6.12】	563人

○主な項目の進捗状況および課題

【指標：三重県地域医療研修センター研修医受入れ数】



○今後の課題

・研修医の受入れ人数について、これまでの年平均は約25人となっており、第8次医療計画においては年平均30人（令和11年度までの累計数563人）を目標としています。

・過去5年間の推移をみると、県内病院からの受入れは増加している一方、新型コロナウイルス感染症の拡大により、県外病院からの受入れが大幅に減少していましたが、令和5年度からは回復しています。

・令和6年度の実績は、12月時点で**36人**（うち県外病院研修医は**10人**）となっており、目標の30人を大きく上回っています。

・今後も、地域医療の担い手の確保・定着に向けて、県内外の研修医呼び込みに努めます。また、へき地や医師少数区域等で勤務することになる地域枠医師・自治医科大学卒業医師が、将来の同地域での勤務に役立つよう、研修医のニーズに応じた効果的・実践的な研修を行っていきます。

○次年度以降の取組方針

へき地の医療提供体制の維持・確保

- ・へき地診療所の代診医の派遣について、へき地医療支援機構の調整のもとに実施した派遣の令和6年度実績は応需率**100%**（12月末時点）となっています。調整が難航するケースや、申請日から派遣日までの期間が短い場合等にも対応できるよう、へき地医療支援機構からへき地医療拠点病院に代診医派遣への積極的な協力を要請する必要があります。
- ・へき地医療拠点病院が実施する無医地区等への巡回診療については、紀南病院から紀宝町の浅里地区へ月1回、県立志摩病院から志摩市の和具（間崎）地区へ月2回、県立一志病院（津市家庭医療クリニック）から津市の伊勢地地区へ週1回、ヨナハ丘の上病院から津市の太郎生地区へ月6回の運用となっています。また、熊野市立紀和診療所から神川・育生地区へ週1回、熊野市内の5地区へ月2回、町立南伊勢病院から南伊勢町の古和浦地区へ月2回、巡回診療を行っています。
その他、へき地医療拠点病院がへき地診療所等への支援のために、独自に医師派遣等の取組を実施（県立一志病院から津市家庭医療クリニック及び津市国民健康保険竹原診療所へ、紀南病院から紀和診療所へそれぞれ医師を派遣）しており、令和6年度の実績は、**380件**（12月末時点）となっています。
無医地区等への巡回診療等の継続も厳しい状況となっていることから、事業実施状況を確認するとともに、主要3事業（へき地への巡回診療、へき地診療所等への医師派遣、代診医派遣）の実績向上と平準化に向けた連携強化を図ります。
- ・へき地診療所の施設・設備について、令和6年度は**10箇所**に医療機器整備を支援しています。また、運営費については、**8箇所**に対し支援をしています。（12月末時点）
へき地診療所の後方支援体制の確保や住民に対する医療提供体制の充実を図るため、今後も引き続き、医療機器の更新や設備整備への支援を行っていきます。
- ・ドクターヘリは、東紀州地域をはじめとする県内全域の三次救急医療体制の充実・強化につながっており、令和6年度は、12月末現在で救急出動として**110件**（うち東紀州地域：**25件**）、病院間搬送として**52件**（うち東紀州地域：**10件**）出動しました。また、三重県、奈良県、和歌山県の三県で締結した相互応援協定による運航を安全かつ円滑に実施するため、三県フライトスタッフ会議を開催しました。
ドクターヘリをへき地等においても効果的に活用するため、引き続き、安全かつ円滑な運航体制の強化を図ります。
- ・歯科医師会等と連携し、へき地を含む地域の在宅訪問歯科診療の取組を支援しました。また、離島において、歯科疾患の予防や口腔機能と誤嚥性肺炎に関する講話と歯みがき指導を行いました。
引き続き、へき地での在宅訪問歯科診療の充実をめざして、歯科医療関係者への在宅歯科診療研修を行います。また、歯と口腔の自己管理ができるよう、へき地住民に対する歯科保健指導を行います。
- ・令和6年度は、へき地におけるオンライン診療の導入・体制整備を進めるへき地診療所**4か所**に対して、機器の整備等必要な経費を支援しています。へき地診療所を有する市町やへき地医療拠点病院へオンライン診療の導入・体制整備に係る支援を引き続き行うことで、オンライン診療の普及につなげるとともに、住民の受診機会の確保と医師の負担軽減を図ります。

へき地医療を担う医師・看護職員の育成・確保

<p>・地域医療対策協議会医師派遣検討部会での調整により、令和6年度は地域枠医師をへき地等医療機関へ28人派遣しました（常勤医師）。 今後も、地域医療支援センターと連携し、キャリア形成プログラムに基づき、地域枠医師の派遣調整を行います。 また、へき地等医療機関での勤務の継続を促すため、厚生労働大臣が認定する医師少数区域経験認定医師に対して、スキルアップを目的とした研修費等について支援を行います。</p>
<p>・自治医科大学義務年限内医師及び三重県医師キャリアサポート制度活用医師をへき地医療機関に派遣・配置（7医療機関の内科へ計17人）しました。 今後もへき地医療機関へ医師を派遣・配置するとともに、義務年限終了後のキャリアサポート制度の利用促進を図ります。</p>
<p>・へき地医療においてニーズが高く、幅広い診療ができる総合診療医を育成するため、人材育成経費の一部を支援しました。また、へき地等における医療・介護連携や多職種連携によるプライマリ・ケアのスキルを習得できるよう、県立一志病院に設置したプライマリ・ケアセンターにおいて、看護師やケアマネジャー等を対象に研修会等を2回実施しました（12月末時点）。 引き続き、総合診療医の育成にかかる経費支援を行うとともに、プライマリ・ケアのスキルの習得に必要な研修を医療従事者やケアマネジャー等の幅広い職種を対象に実施します。</p>
<p>・三重県ナースセンターにおいて、離職した看護職員の再就業のための情報提供や就業斡旋を行い、ナースバンク事業の求職者4,564名のうち334名（12月末時点、延べ人数）が、看護職員として復職しました。また、県内の医療機関等における離職、退職者等の潜在看護職員の情報を積極的に収集したほか、看護職員として再就業を希望する潜在看護師等を対象に復職研修を実施し、18名のうち3名（12月末時点）が復職しました。さらに、平成27年10月に施行された免許保持者の届出制度の周知を図り、これまでに3,826名（12月末時点）の届出が行われました。 へき地医療を担う看護師等の育成確保のため、今後も引き続き三重県ナースセンターや看護協会などの関係機関と連携して看護職員の復職を支援し、就業に結びつけるための情報提供の充実や就業支援の取組を進めます。さらに、看護補助者の確保・定着を図り、看護師等の勤務環境改善につなげるため、看護補助者の仕事に関する周知・広報活動のほか、求職者に対する説明会の提供や無料職業紹介等に取り組めます。</p>
<p>・高校生を対象とした「オンライン看護体験」や（27校、294名が参加）、看護についての関心を高め理解を深めるための「みえ看護フェスタ」等を実施しました。 今後も看護体験や出前授業、「みえ看護フェスタ」等の取組を通じて、地域医療をめざす若者への動機づけの機会提供を行っていきます。</p>
<p>・県内の医学部医学科志望の高校生を対象に、県立一志病院、県立志摩病院、町立南伊勢病院、紀南病院にて「みえ地域医療メディカルスクール」（106人が参加）を現地開催しました。現場で活躍している医師や医療職との交流を通じて、地域医療の重要性と魅力を理解し、将来の進路を考える機会を提供しました。 へき地医療を担う医師を確保するため、へき地医療に対する不安を払拭する必要があることから、「みえ地域医療メディカルスクール」を継続して開催し、地域で活躍する医療関係者との交流を通じて、へき地医療の魅力に触れる機会を提供し、地域医療への啓発を行います。</p>
<p>・へき地医療に関心のある医学生を対象に「へき地医療体験実習・研修会」（医学生23人、9医療機関が参加）を開催しました。県内のへき地医療機関(9施設)に分かれて体験実習を行い、その後実習の報告や特別講演などの研修会を実施しました。 今後もへき地医療現場を実際に体験し、へき地医療への関心を深めるため、「へき地医療体験実習・研修会」を継続していきます。また、参加者が年々増加しているため、新たな医療機関への協力を呼び掛けるなど、取組を拡充していく必要があります。</p>
<p>・三重大学医学部（医学科及び看護学科）の学生を対象に、全市町での保健医療教育を実施するとともに、地域枠Bの学生を対象とした推薦市町訪問・推薦病院訪問や、春・秋の懇談会を実施しました。また、三重県医師修学資金貸与学生及び地域枠学生等を対象とした地域医療体験実習（夏期の三重県へき地医療体験実習・研修会および春期の地域医療体験実習）等を通じて、学生がへき地医療に対する関心を深める機会を提供しました。さらに、三重県地域医療講義では、三重大学医学部医学科1年生を対象に、6回にわたり地域医療の魅力を伝える講義を行いました。受講者へのアンケート結果では、「へき地医療に興味を持った」「実際の経験談を通じて医療に携わることを意識できた」などの感想が寄せられ、講義の前後で地域医療に興味を持つ学生が有意に増加する結果となりました。 へき地医療体験実習・研修会や三重県地域医療講義等を通じ、継続して地域医療教育の充実を図り、今後も三重大学医学部医学・看護学教育センターなど関係機関と連携して地域医療の担い手の育成を進めます。</p>

・へき地等地域医療に従事する医師の育成に向けて、平成21年4月に紀南病院に設置した三重県地域医療研修センターにおいて、研修医等を対象に無医地区等への巡回診療や往診など実践的な地域医療研修を提供しています。令和6年度は**36人**（12月末時点）の研修医を受け入れ、開設時からの受入れ累計数は426人となりました。県内病院からの受入れが増加しており、新型コロナウイルス感染症の拡大以降減少していた県外病院からの受入れも回復しています。

地域医療の担い手の確保・定着に向けて、県内外からの研修医呼び込みに努めるとともに、研修医のニーズに応じた効果的な研修を行っていくため、県内へき地・離島の医療機関とより一層の連携を図ります。また、研修の魅力を伝えるとともに研修の充実に役立てるため、県内のへき地・離島の医療機関とそこでの地域医療研修を紹介する冊子『三重県へき地・離島医療機関 地域医療研修ガイド』を改訂します。

・医師無料職業紹介事業の活用等により、へき地に勤務する医師の確保に取り組みました。また、令和6年12月より、三重で働く医師・看護職員応援サイト「三重メディナビ」を開設しました。医師求人情報のほか、県内医療機関で活躍する医師や看護師のインタビュー動画等を掲載し、県外医師等への情報発信を行っています。

今後も「三重メディナビ」の掲載情報を充実させ、情報発信を行うことで、引き続きへき地医療機関に従事する医師の確保に努めます。

・バディホスピタルシステムの活用による医師派遣（伊勢赤十字病院から尾鷲総合病院への常勤医師派遣）が継続されるよう、引き続き関係医療機関に働きかけを行います。

・労働者派遣にかかる法令及び国の通知に基づき、へき地に派遣される看護師等を対象に、へき地の医療機関において円滑に業務を行うための知識や地域の状況等についての事前研修を行っています。へき地の医療機関に派遣された看護師等が円滑に業務を行えるよう、必要に応じて事前研修を実施します。